

# 真宗相馬移民 200年 記念講演会

平成23年11月26日(土)午後1時半～4時半

城端別院 善徳寺 新講堂にて (南砺市城端405)

## 第1部 講演 (13:30～)

「今、飯館村で思うこと」 杉岡 誠氏  
(本願寺派善仁寺住職、飯館村職員)

## 第2部 パネルディスカッション (14:30～)

- ・ パネラー  
杉岡 誠氏  
千秋 謙治氏(郷土史家)  
木村 宣彰氏(大谷派報土寺住職、前大谷大学学長)
- ・ コーディネーター  
太田 浩史 (大谷派大福寺住職、となみ民藝協会会長)



杉岡 誠氏

昭和29年の調査で、福島県飯館村には93軒の真宗移民が確認されています。その多くは私たちの郷土から移住した人々です。深刻な原発事故の被害を受けつつある飯館村、今、私たちに何が求められているのか。

杉岡氏は、善仁寺住職、飯館村職員に加え、東京工業大学大学院で基礎物理学を専攻、米国にも留学して原子核物理学を学び、原発事故の現場にあって、念仏の眼、科学の眼、行政の眼から現地の状況や今後の課題を語ることのできる稀有な存在であります。

皆様お誘いあわせの上、  
ぜひともご参加くださいますようお願い申し上げます。

真宗相馬移民200年

# 記念講演会

平成23年11月26日(土)

城端別院善徳寺 新講堂

- 13:30 勤行(嘆仏偈)  
開会のことば
- 13:40 第1部 講演 杉岡 誠 氏  
「今、飯館村で思うこと」
- 14:30 第2部 パネルディスカッション  
「私たちに今できること」  
パネラー 杉岡 誠 氏  
千秋 謙治 氏  
木村 宣彰 氏  
コーディネーター 太田 浩史
- 16:30 終了

主催 真宗相馬移民200年記念講演会実行委員会

## 出演者紹介

- |       |  |
|-------|--|
| 杉岡 誠  | 東京工業大学大学院卒業<br>基礎物理学専攻<br>米国留学<br>浄土真宗本願寺派善仁寺住職<br>飯館村職員 |
| 千秋 謙治 | 砺波散村文化研究所員   |
| 木村 宣彰 | 浄土真宗大谷派報土寺住職<br>前大谷大学学長                                  |
| 太田 浩史 | 浄土真宗大谷派大福寺住職<br>となみ民藝協会会長                                |

講師の杉岡誠氏は、飯館村善仁寺住職、飯館村村役場職員に加え、東京工業大学大学院で基礎物理学を専攻、米国にも留学して原子核物理学を学び、原発事故の現場にあって、念仏の眼、科学の眼、行政の眼から現地の状況や今後の課題を語ることのできる稀有な存在であります。



## 趣旨

文化八年(1811)のおそらく晩秋、13家族79人の移民がひそかに砺波郡から相馬中村藩領めざして旅立ちました。これが幕末にかけて実施された延べ1万人にのぼる真宗相馬移民のはじまりでした。今年はその最初の旅立ちからちょうど200年にあたります。しかしその記念すべき年相馬の地は大震災・大津波と原発事故という深刻な事態に陥っています。そこで何よりも我々高岡教区の地から本願念仏の学びを通したエールを送ろうではないかというのが今回の趣旨です。

きっかけは9月28日に南相馬市原町別院で行われた「相馬移民200年門徒交歓会」に参加した21名のメンバーが、もっと原発事故の現実を知り、福島の人たちとの交流を深める必要を感じたことでした。21名は様々な形で物心両面の支援につながる活動を行っていこうと帰りのバスの中で誓い合いました。そしてたまたま西本願寺高岡会館報恩講に杉岡誠さんがお越しなる機会を縁として今回の講演会の運びとなりました。



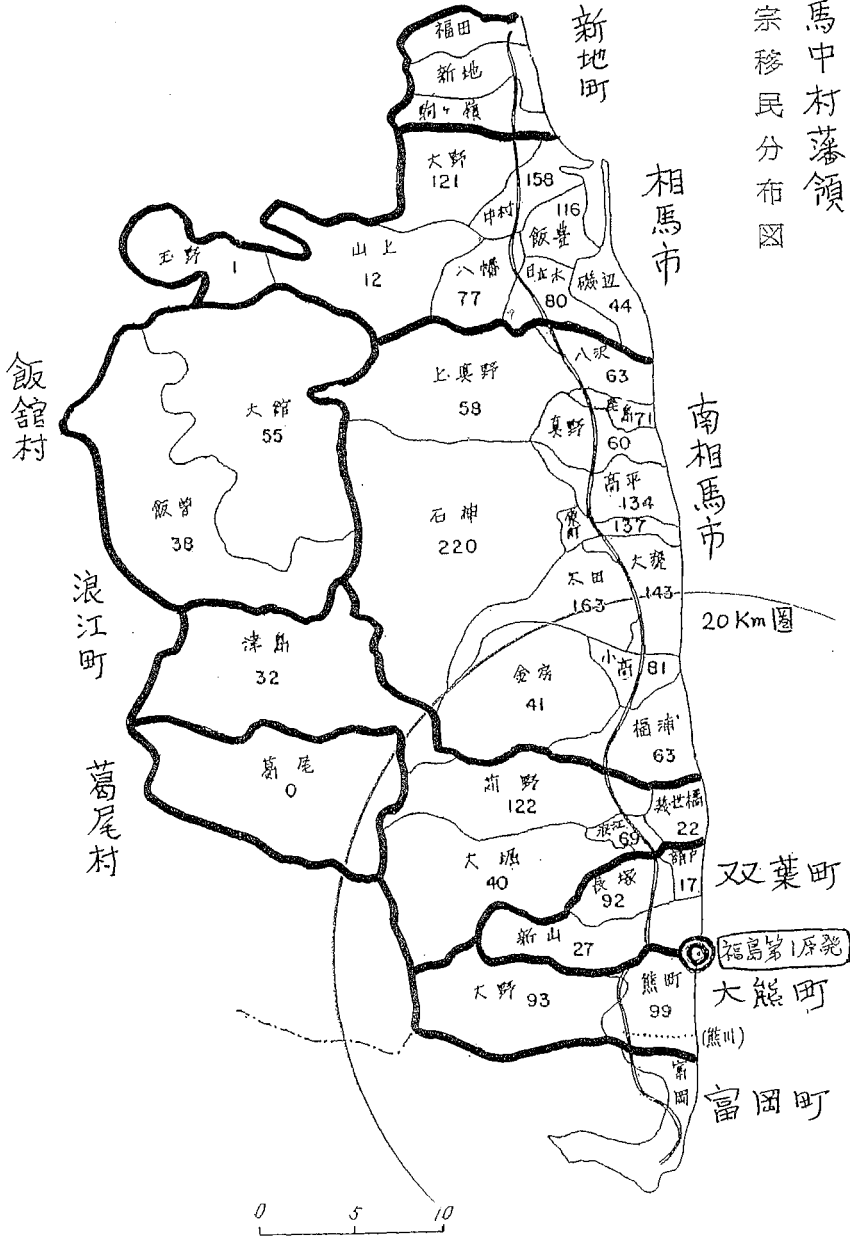
### 真宗相馬移民 200 年記念講演会実行委員

荒井共信、伊東俊夫、稲場弘志、稲場富喜江、岩井悟一、太田浩史、大西和子、加藤平次郎、坂井実、坂井哲元、柴田富士夫、千秋謙治、土居文雄、鳥越一志、野原久仁、長谷川脩、水口弘、宮川修、森田信雄、山田正次、吉田稔

(以上50音順)

旧相馬中村落藩領

真宗移民分布図

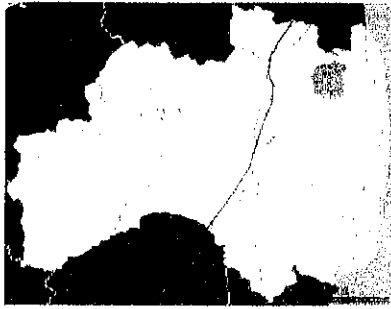


昭和29年調査  
原町別院資料

数字は世帯数

# 飯 館 村 の 概 要

最終更新 2011.2.1



## <全国表彰の受賞歴>

- 昭和62年 畜産振興により自治大臣表彰
- 平成 3年 過疎地域活性化優良事列表彰（国土庁長官賞）
- 平成 9年 農業構造改善事業により農林水産大臣表彰
- 平成17年 過疎地域自立活性化優良事列表彰（総務大臣賞）
- 平成20年 公衆衛生事業功労者（市町村）厚生労働大臣表彰
- 平成21年 いいたて農地・水・環境保全向上対策推進協議会が農林水産大臣賞を受賞。

## 立地条件

飯館村は、福島県「浜通り地域」に属し、県東北部、阿武隈山系北部の高原丘陵に位置する標高 220～600mの純農山村。

## 気象

4月末桜の開花に新緑が萌え、梅雨明け7月下旬は短い夏の日。星座まばたく秋の夜、10月中旬錦秋の紅葉。木枯らしの冬を過ぎ新年2月の朝は氷点下18度のダイヤモンドダストも降雪少なく、3月の淡雪に春近し。

※ 飯館村は「やませ（太平洋高気圧による冷夏）」の常襲地帯に位置し、近年では平成15年（2003）の冷害、平成5年（1993）昭和55年（1980）の大冷害で農作物の収穫に著しい影響を受けた。

## 村沿革等

昭和31年9月30日 旧大館村・飯曾村の2ヵ村合併で飯館村が誕生

平成16年10月 合併しない「自主自立」の村づくりを選択

## 位置、地勢

総面積 230.13 km<sup>2</sup>（東西 15.2 km、南北 16.8 km、周囲 65 km）

役場位置 東経 140 度 45 分 北緯 37 度 40 分 標高 488.8m

所在地 〒960-1892 福島県相馬郡飯館村伊丹沢字伊丹沢 580-1

電話 0244-42-1611（代表）、FAX 0244-42-1601（総務課）

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp>

人口・世帯数 6,211人、1,733世帯（平成22年10月1日現在、国調速報値）

※平成17年国勢調査に基づき増減した

【昭和30年 合併当時人口 11,403人 世帯数 1,809世帯】

人口減少率 5.3%（平成17年国調） 年間出生数 56人（平成17年）

高齢化率 27.9%（平成17年9月） 年間死亡数 81人（平成17年）

一世帯当たり人口 3.58人（平成22年10月現在）

## 地域指定

過疎（昭和51年、昭和55年、平成2年、平成12年）、振興山村（昭和44年）、  
辺地、農工、特農、どぶろく特区（平成17年）

## 土地利用

全面積 23,013ha（100.0%）

水田 1,431ha（6.2%） 畑 1,122ha（4.9%） 宅地 85ha（0.8%）

山林 17,114ha（74.4%）※うち国有林が47% 牧場 159ha（0.7%）

原野 1,665ha（7.2%） その他 1,437ha（5.8%）

●飯館村応急仮設住宅の入居戸数と空き戸数の状況

地区名	建設戸数	合計	
		入居戸数	残戸数
国見町森山(上野台)	25	23	2
国見町大木戸	12	10	2
相馬市西工業団地	164	162	2
旧飯野小学校	35	35	0
旧明治小学校	30	27	3
旧松川小学校	46	42	4
松川工業団地第一(C地区)	118	108	10
松川工業団地第二(E地区)	109	102	7
伊達東グランド	126	80	46
合計	665	589	76
		入居率	88.57%

●県借上げ住宅特例の避難先状況

施設名	入居世帯数	世帯人数
特例借上住宅	1,446	3,711
県借上住宅(村斡旋)	48	94
合計	1,494	3,805
地区別	地区別世帯数	
福島市	914	
伊達市	178	
川俣町	145	
南相馬市	120	
相馬市	30	
その他	107	

## 村民の皆様へ

飯舘村長 菅野典雄

平成23年3月11日の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故によって、飯舘村は放射能物質に汚染され、全村が4月22日に計画的避難区域となりました。村民の皆さんには、慣れない避難生活を強いられ、それにより計り知れない不安と心労をお掛けしています。

### 1 避難の状況

避難は7月末までにはほぼ完了し、約3割の村民が仮設住宅や公的宿舎に集団避難し、約7割の方は、県の借り上げ住宅などにそれぞれ避難しています。また、約1,700あった世帯数が実質2,700にも増え、家族がバラバラに避難している状況です。

●世帯数	約1,700世帯 ⇒ 約2,700世帯
●避難先	約6,200人
⇒	・福島市 3,687人      ・伊達市 622人
	・川俣町 491人      ・相馬・南相馬市 645人
	・県外 530人      ・その他 178人
●仮設住宅(9箇所)・公営宿舎等	795世帯 約30%
借上住宅等	1,805世帯 約70%

### 2 今進めている主な課題

計画的避難により、村が今まで経験したこともない新たな課題に直面しており、現在、課題解決に取り組んでいます。10月19日には「いいたて復興計画村民会議」を立ち上げ、村民の皆さんの意見を聞きながら復興計画を作っています。

- (1) 健康づくり → 甲状腺、内部被曝検査、健康診断
- (2) 新たなコミュニティづくり → 自治組織立ち上げ、補助金制度創設
- (3) 除染 → 飯舘村除染計画、仮置き場(国と調整中)
- (4) 復興プランづくり → 村民一人ひとりの復興を目指します  
みんなで創ろう新たな「いいたて」を
- (5) 学校環境づくり
  - ・幼稚園(74人) → 飯野町に仮設園舎
  - ・小学校(249人) → 川俣町に仮設校舎
  - ・中学校(132人) → 飯野町で調整中
  - ・高校 → 今後の課題

### 3 希望プラン「2年で帰りたい」について

- (1) 避難生活は村民の皆さんにとって極めて大きな負担であり、2年ぐらいで段階的に村に帰ることができる環境をつくるため、除染対策を始め、村としてできる限りの努力をしていくことです。
- (2) 村に帰ることについては、村の努力はもとより、「避難は2年ぐらいにしたい」と表明することで、国や県がスピード感を持って対策を進めることを強く求めるためです。



村民の避難状況

H23.10.1 現在

1. 基数＝現住人口(平成22年12月1日現在。国勢調査人口に異動反映した数)  
6,177人
2. 避難数＝6,164人(99.78%)
3. 未避難数＝13人(8世帯)

●県内外の避難状況

区域	避難人数	避難世帯数
県内	5,514	2,283
県外(北海道から沖縄)	530	288
外国(中国、韓国、フィリピン)	14	12
いいたてホーム	106	106
村内	13	8
合計	6,177	2,697

●公的宿舎の避難状況

施設名	入居世帯数	世帯人数
国・県等の公的宿舎 (福島市・二本松市)	214	708



# 相馬中村藩中郷への越中真宗移民 その時期と家族

千秋 謙治

No.	入植の時期	出発	到着	出身の郡村	人名	年齢	家族	出身手次寺
1	文化12 (1815)	---	12月	砺波・秋元村	仁兵衛	34	6	秋元村光福寺
2	"	---	12月	射水〔開発村〕	八郎右衛門	37	5	開発村妙専寺
3	文化13 (1816)	---	1月	砺波・下吉江村	小三郎	34	6	二日町村普願寺
4	"	---	1月	婦負・上吉川村	文右衛門	42	6	上吉川村楽入寺
5	"	---	2月 5日	婦負・上吉川村	五左衛門	38	6	上吉川村楽入寺
6	"	---	8月	砺波・叢谷村	吉 蔵	48	4	梅原村以速寺
7	"	---	9月 6日	砺波・山見村	清 六	65	7	井波町瑞泉寺
8	"	---	9月 6日	砺波・山見村	与三右衛門	41	4	井波町瑞泉寺
9	"	---	10月	砺波・前田村	与左衛門	36	4	[前田村相建寺]
10	"	---	11月 7日	砺波・苗島村	平左衛門	60	3	野尻村等覚寺
11	"	---	12月	砺波・下吉江村	太郎三郎	49	9	-----
12	文化14 (1817)	---	10月24日	砺波・松林村	仁兵衛	48	3	福野町西方寺
13	"	---	12月 1日	砺波・是安村	吉左衛門	30	2	在房村専徳寺
14	"	---	12月17日	砺波・清水村	十右衛門	40	7	院林村常願寺
15	"	---	12月21日	砺波・清水村	次郎吉	41	6	-----
16	"	---	10月21日	婦負・光善寺村	弥 助	39	2	光善寺村勝福寺
17	文政元 (1818)	---	3月10日	砺波・神成村	三郎右衛門	42	6	城端町教念寺
18	"	---	10月	砺波・石田村	七 助	55	7	石田村空泉寺
19	文政2 (1819)	1月29日	2月29日	砺波・石田村	八兵衛	43	6	細野村正空寺
20	"	---	2月29日	砺波・院林村	三郎二郎	63	4	福野町西方寺
21	"	---	3月20日	砺波・院林村	伊左衛門	43	5	福野町西方寺
22	"	---	4月18日	新川・山生地新村	半右衛門	47	7	同 村専念寺
23	文政3 (1820)	1月24日	2月24日	砺波・院林村	文次郎	42	9	福野町西方寺
24	"	---	2月29日	砺波・頼成村	太郎兵衛	42	7	秋元村光福寺
25	"	1月29日	2月29日	砺波・安川村	市兵衛	42	8	杉木村真光寺
26	"	---	4月15日	砺波・院林村	仁十郎	51	6	福野町西方寺
27	文政4 (1821)	1月29日	3月 2日	砺波・院林村	宗左衛門	62	10	院林村常願寺 (※家族は 1月29日国元発 長男と二男は 2月29日着 残りの家族は 3月 2日着)
28	"	---	3月 2日	砺波・八塚村	与祖次郎	43	7	在房村専徳寺
29	"	---	-----	砺波・八塚村	宗左衛門	---	3	在房村専徳寺
30	"	---	5月	砺波・苗島村	忠左衛門	26	3	-----
31	文政5 (1822)	2月11日	3月 1日	砺波・利波河村	市左衛門	55	5	水島村勝満寺
32	"	-----	-----	砺波・岩木村	嘉右衛門	52	10	城端町善徳寺

33	文政 8 (1825)	10月27日11月20日	砺波・柳瀬村	久三郎	35	4	柳瀬村万遊寺 (柳瀬村の久三郎は10月27日に「村出寺出し上る」とあり 寺の関与が窺える)
34	文政 9 (1826)	1月23日	砺波・安川村	武右衛門	52	5	開発村大乘寺
35	"	1月23日	砺波・鴨島村	吉左衛門	38	5	鴨島村善照寺
36	"	1月26日	砺波・田尻村	弥左衛門	36	4	[顯徳寺]
37	"	1月23日	砺波・田尻村	源十郎	63	3	-----
38	"	1月23日	砺波・頼成村	源四郎	49	6	頼成村西慶寺
39	"	12月31日	砺波・山本村	喜左衛門	28	3	-----
40	文政10 (1827)	2月26日	砺波・砂子坂村	仁兵衛	39	6	城端町善徳寺
41	文政11 (1828)	12月	砺波・在房村	利右衛門	47	5	城端町善徳寺
42	"	2月	砺波・在房村?	桑次	30	5	-----
43	文政12 (1829)	-----	砺波・在房村	三次郎	44	5	城端町善徳寺
44	"	3月	砺波・庄金剛寺村	吉三郎	36	8	庄金剛寺村西蓮寺
45	天保 2 (1831)	10月 2日11月 7日	砺波・是安村	清吉	50	5	金戸村専徳寺
46	"	10月15日	砺波・八幡村	久助	40	7	院林村常願寺
47	"	10月 6日	砺波・井波町	嘉左衛門	50	7	井波町瑞泉寺
48	天保 3 (1832)	4月	砺波・晩田相木村	与兵衛	48	4	西島村莊嚴寺
49	天保 4 (1833)	-----	砺波・理休村	吉郎右衛門	30	1	[長願寺]

- 注 1. 「追年入百姓覚 中ノ郷益田村肝入 木幡彦兵衛扣」によって作表した。
2. 本表は木幡彦兵衛、三嶋三郎右衛門等が世話した行方郡中ノ郷への移民家族である。
3. 史料に戸浪郡や上花村などある郡村名は、砺波郡、城端町などに書き換えた。
4. 村名及び手次寺で確認や推定ができないものはカッコで示し、史料のままとした。
5. 本表は地元出立月日と到着月日を加え、受け入れ寺院名を省いた 注記No.11の論考にある表には受け入れ寺院名を載せてある
6. 家族数は本人を含む数値を示した この史料には家族の年令・名前の記載がある。
7. 中村と馬場野村は現相馬市、原町村は現南相馬市に属している
8. 作表に当たっては浪江町の佐々木弘氏 南相馬市の大和田幾雄氏 吉田哲雄氏から
9. 史料の提供と教示を頂いた
10. 本表に関する論考は「砺波農民の相馬中村藩への移民」千秋謙治 『砺波散村地域研究所紀要』26号(2009)に所収した